

執筆者紹介

岡田 リチャード 英樹 (オカダ・リチャード・ヒデキ)

プリンストン大学教授

現在、『源氏物語』に関する英語で書かれた論文集の編集に取り組んでいる。その他の最近の仕事には、金城一紀の小説『GO』と行定功の映画『GO』について論じた“The Possibility and Impossibility of Zainichi in GO”、テレビ・ドラマ『氷の世界』の映像について分析した“Romancing the Image”、エリア・スタディズのあり方について論じた“Areas, Disciplines, and Ethnicity”、『源氏物語』における左遷の働きをテーマとした“Displacements of Conquest: Or, Exile, The Tale of Genji, and Post-Cold War Learning”等がある。

天野 聡一 (アマノ・ソウイチ)

神戸大学大学院人文学研究科博士後期課程在学中

神戸大学卒業。神戸大学大学院文学研究科修士課程修了。研究分野は日本近世における雅文体の和文小説、また古典学と小説創作の相互関係。論文に「筆人を刺す。－『春雨物語』『海賊』の諷刺と虚構」(『国文学研究ノート』41、2007)、「近世和文小説と「誤読」－石川雅望『飛弾匠物語』についての分析」(『江戸文学』36、2007)、「芍薬亭長根『坂東奇聞漏衣双紙』考－『通俗金翹伝』の利用法を中心に－」(『国文論叢』41、2009)などがある。

Niels VAN STEENPAAL (ニールス・ファン・ステーンパール)

京都大学大学院研究生

ライデン大学日本学科修士課程修了。研究分野は日本近世思想史。論文に「「忠孝」の工夫論－「忠孝」を巡る幾つかの問題通観－」(『日本語日本文化研究留学生報告書2004－2005』京都大学国際交流センター、2006)、「Kankoku Kougiroku (1801): beschrijving, analyse en interpretatie. (Unpublished Master Thesis, Leiden University, 2007) (『官刻講義録』(1801)－紹介・分析・解釈－」(未刊修士論文、ライデン大学、2007)がある。

丁 莉 (DING Li テイ・リ)

北京大学副教授

北京第二外国语学院日本語学部卒業。二松学舎大学修士課程、お茶の水女子大学博士課程修了。主な研究分野は平安時代の物語文学。著書に『伊勢物語とその周縁－ジェンダーの視点から』(風間書房 2006・5)、論文に「あしずりとかひなし－『伊勢物語』第六段への一視点」(『表現研究』81号 2005・3)、「平安時代の女性と文学」(『東方研究2006』経済日報出版社 2007・3)などがある。

Nguyen Thi OANH (グエン・ティ・オワイン)

ベトナム社会科学院、ハノイ漢喃研究所室長

ハノイ外国語大学卒。文学博士。研究分野はベトナム古典文学（李、陳王朝における漢文説話）、ベトナムの漢字（ベトナムの漢文漢文訓読）。訳書（ベトナム語）に『日本靈異記』（文学出版社、1999）。論文に「ハノイの村落調査における民間伝説採集からの若干の考察」（『ベトナムの社会文化』2、2000）、「漢字・字喃研究所蔵文献」（『世界における日本漢文学研究の現状と課題』、岩波書店、2005）、「ベトナム漢文訓読について、『嶺南摭怪』を中心に」（『典籍交流（訓読）と漢字情報』、北海道大学院文学研究科、2006）、「ベトナム漢文説話における「雷神退治」のモチーフについての比較研究」（『アジア遊学』114、2008）などがある。

丁 曼 (DING Man テイ・マン)

早稲田大学大学院文学研究科博士後期過程在学中、早稲田大学演劇博物館グローバルCOE研究員

北京外国語大学卒、同大学院修了。北京外国語大学外語教育^{および}与研究出版社に編集者として勤務。論文に「死のモチーフ—川端康成作品「禽獣」解説」（『日本学研究論集（第4集）』2004・12）、「映画『血と骨』解説」（『日本語ジャーナル』2005・12）、「能「砧」と「井筒」の中国語訳」（2008年度演劇博物館グローバルCOE「演劇映像学」刊行予定）などがある。

佐山 美佳 (サヤマ・ミカ)

総合研究大学院大学文化科学研究科在学中

早稲田大学第二文学部卒。群馬県立女子大学文学研究科修了。「深刻」という語のターミノロジーに関心がある。論文に「〈深刻がり〉な文壇・出版ジャーナリズムへの復讐—横光利一『火』『愛巻』『滑稽な復讐』をめぐって—」（『横光利一研究』6、2008・3）「〈新資料紹介〉国文学研究資料館蔵 北川冬彦宛横光利一書簡について」（同）などがある。

蘭 明 (LAN Ming ラン・メイ)

実践女子大学人間社会学部教授

中国社会科学院大学院修士課程修了。東京大学大学院博士課程修了、学位取得。中国社会科学院外国文学研究所助理研究員、東京芸術大学客員研究員、東京大学外国人研究員などを歴任。研究分野は日本近現代文学、比較文学。最近の研究テーマは東アジアの現代文学の比較研究（日中韓3ヵ国を中心とする）。著書に『蓬萊曲』（上海訳文出版社、1985）、『大岡信詩選集』（北京三聯書、1991）、『李箱詩集』（花神社、2004）など。論文に「最近三十年における韓国女性詩に関する概説的考察—現代東アジア女性文学表現史論の一環として」（『実践女子大学人間社会学部紀要』2008・4）などがある。

TAN Daniela (タン・ダニエラ)

チューリヒ大学博士課程在学中、同大学研究アシスタント

チューリヒ大学卒。京都外国語大学、大阪外国語大学にて日本語・日本文学を研究。研究分野は日本現代文学。論文に「“Wortweit - Die Welt von Ōba Minako”」(Asiatische Studien/Etudes Asiatiques LXI, 2007.2)、「“Das Andere im Eigenen. Blicke auf die Mythologie in Ōba Minakos Werk”」(Referate des 13. Deutschsprachigen Japanologentags in Bonn vom 12.-15. Sept. 2006. 刊行予定)。

范 淑文 (FAN ShuWen ハン・シュクブン)

台湾国立台湾大学日本語文学科専任副教授

お茶の水女子大学人文科学研究科修士。台湾輔仁大学(夜)日本語学科代理主任、台湾放送大学テレビ番組日本語講座担当、お茶の水女子大学客員研究員などを歴任。研究分野は日本近代文学。著書に『漱石研究『草枕』その究極』(凱兪出版社、2002)、『漱石研究「場の模索」——チャイニーズとの接点を通して——』(凱兪出版社、2006)。論文に「『虞美人草』のもう一つの読み——漱石の台湾へのまなざし』(『台湾日本語教育論文集』9、2006・6)「漱石の「桃源郷」とは——『草枕』を例にして——」(『台大日本語文研究』14、2007・12)などがある。

青木 慎一 (アオキ・シンイチ)

立教大学大学院博士課程後期課程在学中

立教大学文学部卒。研究分野は中古文学、特に源氏物語。論文に「夕霧の「生ひ先」-成長をめぐる表現方法について-」(『立教大学日本文学』99、2007)、「幻の「源氏物語絵巻」の本文系統について-石山寺蔵「源氏物語絵巻」末摘花上の本文系統の確認」(『立教大学大学院日本文学論叢』8、2008)、「「松風」・「薄雲」巻における明石姫君-「生ひ先」に托された思惑」(『源氏物語〈読み〉の交響』、新典社、2008)など。

金 秀美 (KIM SooMi キム・スーミ)

高麗大学日本研究センター研究教授

高麗大学日語日本学科卒。早稲田大学文学研究科修士・博士課程修了。博士論文『源氏物語論-空間表現と物語の方法-』で学位取得。研究分野は、『源氏物語』を中心とした中古物語における空間の問題や空間表現。論文に「『源氏物語』における須磨の空間-「海づら」「山里」の空間表現とその機能について-」(『日本古代文学と東アジア』、勉誠出版、2004)、「玉鬘物語における「九条」と「椿市」-《市》を巡る説話との関わりから-」(『中古文学』2004・5)、「明石君と桂の院-重層的な物語空間の解釈をめざして-」(『国文学研究』148、2006・3)などがある。

金 裕千 (KIM YooCheon キム・ユチオン)

祥明大学校副教授

韓国外国語大学校日本語科卒。東京大学大学院修士・博士課程修了。研究分野は平安物語文学。論文に「秋好の出家願望と光源氏－目連救母説話と関連して－」（『むらさき』36、1999・12）、「朝顔巻末の「みつの瀬」をめぐって－藤壺追慕と罪の救済－」（『文学・語学』167、2000・5）、「『源氏物語』の場面性－蛭巻のかいまみ場面をめぐって－」（韓国日本語文化学会『日本語文化』7、2005・10）、「鈴虫巻の光源氏と女三の宮をめぐって」（韓国外国語大学校日本研究所『日本研究』28、2006・6）、「平安時代における恋の時間表現－〈後の逢瀬〉の表現を中心に－」（『日本語文化』11、2007・10）などがある。

Stina JELBRING (スティーナ・イエル布林)

ストックホルム大学東洋学部日本学科助手

研究分野は『源氏物語』。論文に「小野小町の和歌における記号論的・構造主義的様相－再理解の試み」（ストックホルム『東洋古物博物館紀要』76、2004）、『*Den japanska skriften: teori och praktik*』（日本の文字、理論と実践）（ゲニッラ・リンドベリ・和田、木村浩子共著書）（ストックホルム大学出版、2006〔修正版2008〕）などがある。